

(24) 神田川水系にみる住民及び有識者の
河川環境に関する意識調査

CONSCIOUSNESS SURVEY OF INHABITANTS AND INTELLIGENT PERSONS FOR
RIVER ENVIRONMENT ON THE KANDA RIVER

土屋十閑*・和泉 清*・宮村 忠**・安藤義久***

Mitsukuni TSUCHIYA*, Kiyosi IZUMI*, Tadashi MIYAMURA**, Yoshihisa ANDO***

ABSTRACT; The Kanda River is representative of the small and medium sized rivers running through the center of Tokyo and its basin area is one of the earliest urbanized basins.

The study provides a summary of the results of questionnaire survey on the consciousness for river environment in its Kanda River area. This questionnaire survey is intend to a total plan with regard to such improvement of river environment. An object of questionnaire is inhabitants and intelligent persons. Gathering method of questionnaire survey is by mail. We sent to 3300 letters for inhabitants, to 500 letters for intelligent persons. Result of mail, ratio of recovery was 21.5% in inhabitants, and 14.4% in intelligent persons.

The result of questionnaire survey, in the near future, a new path has opened for improvement of river environment in the kanda river, and we could understand for concretely needs in the basin Kanda River.

KEYWORDS; Kanda River, river enviornment, questionnaire survey, inhabitants, intelligent persons,

1. はじめに

近年、河川的环境機能は治水機能及び利水機能と同様に人間の生活環境、地域の自然及び精神的風土等に大きな影響を与える点で極めて重視されるようになってきた。そのため、河川環境の保全とその創造に向けて、新しい河川管理の理念が必要となってきた。

市街化の著しい都市河川においては治水、利水が今日においても、住民の生命、財産を守る点で第一義的課題であり重視されてきた。しかし、都市化によって貴重な水辺環境を失い、水質汚濁、水量の涸渇化そして河道のコンクリート化を招いた。

本調査、研究で対象とする神田川水系は都市河川がもつこのような問題点を凝集させた象徴的な都市河川といえる。本報告は神田川水系（神田川、日本橋川、妙正寺川、善福寺川、亀島川）の河川環境の保全とその向上を計り、潤いのある魅力的な河川環境づくりを検討することを目的として神田川流域の住民及び有識者へのアンケート調査結果をまとめ報告するものである。又、本報告では一般住民の意識実態と有識者のそれとの違いや部分的な質問項目ではあるが、昭和40年代における同流域での河川環境に対する意識実態と今日との相違点等を明らかにし、考察を加えたものである。

*東京都土木技術研究所 Institute of Civil Engineering of Tokyo Metropolitan Government. ** 関東学院大学土木工学科 Department of Civil Engineering, Kantogakuin University. *** 東京都立大学土木工学科 Department of Civil Engineering, Tokyo Metropolitan University

2. アンケート調査の方法

2.1 アンケートの抽出と回収方法

(A) 住民アンケート調査

住民アンケート調査は特定の地域に集中しないように神田川流域に属する各区市の町及び丁目の居住者と事業所を対象とした。抽出方法は居住者が住民基本台帳から事業所は事業所年鑑からそれぞれ無作為抽出により行った。なお、それらの資料が閲覧できない場合は一部住宅地図を使用した。

配布方法は1000枚以上の回収を目標として約3300枚をダイレクトメール（返信用封筒を同封）して送付した。回収数は706通であり、回収率は21.5%であった。配布数は神田川水系の河川延長距離の比率に応じて配布した。但し、一つの行政区で最低100通とした。流域の区市別配布数と回収状況は表-1の通りである。又、回答者706通の属性として、年齢層は19歳以下0.4%(3通)、20~29歳3.3%(23通)、30~39歳13.3%(94通)、40~49歳18.0%(127通)、50~59歳24.6%(174通)、60歳以上34.3%(242通)、無回答6.1%(43通)である。職業については商工業自営11.5%(81通)、会社員47.0%(332通)、公務員4.0%(28通)、サービス業2.4%(17通)、自由業7.5%(53通)、主婦6.7%(47通)、学生0.7%(5通)、無職12.5%(88通)、その他4.1%(29通)、無回答3.7%(26通)となっている。

(B) 有識者アンケート調査

アンケートの抽出方法は神田川水系に関係し、流域の区市に居住する各分野の著名人、有識者を対象とした。各分野は文化・芸能界、経済界、学術関係の各学会の著名人、有識者について各種人名録（朝日年鑑、マスコミ人名事典等）から約1500人程度リストアップし、その中から無作為に500人を抽出した。配布、回収の方法は一般住民アンケートと同様である。配布、回収の状況は100通以上の回収を目標としたが回収数は72通であり、回収率は14.4%であった。

表-1 神田川流域の区市別配布数・回収状況

流域の 区 市	河川延長の 比率 (%)	配 布 数			回収数 (通)	回 収 率 (%)
		計	事業所	世帯		
千代田区	11	360	210	150	89	24.7
中央区	6	200	100	100	51	25.5
文京区	6	200	30	170	44	22.0
新宿区	15	490	90	400	87	17.8
豊島区	3	100	10	90	15	15.0
中野区	22	669	80	589	103	15.4
杉並区	33	1,037	100	937	254	24.5
三鷹市	4	132	10	122	34	25.8
武蔵野市	0	101	10	91	12	11.9
その他・ 無回答					17	—
合 計	100	3,289	640	2,649	706	21.5

3. 調査結果及び考察

3.1 神田川に対する親しみ、愛着度をみる

(A) 日頃、神田川を見ることがあるかどうか。

- ・ ほとんど毎日見る 35.7%(272通)
- ・ 週に2~3回見る 20.3%(143通)
- ・ 月に2~3回見る 27.2%(192通)
- ・ ほとんど見ない 13.6%(96通)
- ・ 無回答 3.3%(23通)

アンケート回答者の3分の1以上の人が『ほとんど毎日、神田川をみている』と回答しており、『週に2~3回見る』という人も入れれば半数以上の人が日常的に神田川に接しているといえる。

神田川との係わり方については『通勤、通学或は買物で単に川沿いを通るだけ』と『散歩』がともに半数以上を占めていた。

(B) 神田川やその川沿いの地域を利用する場合の時期、季節について

この設問については『年間を通じて』という回答が最も多いが、季節としては『春』が圧倒的に多く、時間帯は午後が多い。また、曜日については平日も休日もそれ程変わらず、一定の傾向は見られなかった。

(C) 神田川に対する親しみ、愛着について

- | | 一般住民 | 有識者 |
|-------------|-------------|------------|
| ・ はい | 60.3%(426通) | 69.4%(50通) |
| ・ いいえ | 9.6%(68通) | 8.3%(6通) |
| ・ どちらともいえない | 27.9%(197通) | 15.3%(11通) |
| ・ 無回答 | 2.1%(15通) | 6.9%(5通) |

神田川に対しては回答者の約60%の人が親しみや愛着を感じている。一方、有識者では約70%であり、一般住民を上回っている。また、『親しみや愛着を感じない』とする人は全体の10%未満に過ぎない。更に、地域別の親しみ、愛着度は神田川下流の千代田区、文京区と上流の杉並区、三鷹市の4区市では神田川への『親しみがある』とした人が多いが、中流部の新宿区、豊島区、中野区及び下流の中央区で『親しみがない』という人が多い。これは水害を受けてきた地域と日本橋川の上に高速道路が乗っている地域では親しみが薄いことを示している。

(D) 神田川への親しみ、愛着の内容について

次に神田川への親しみ、愛着への内容について回答を求めたところ『散歩ができる』(29.3%)、『都会の貴重な自然』(28.0%)、『身近にあり毎日見ているから』(25.1%)が多かった。

この結果を地域別に見ると『散歩ができる』から『都会の貴重な自然である』とした回答は杉並区、三鷹市、武蔵野市等の上流部で多くなっている。これに対して、千代田区、中央区等の下流部では『こどもの頃遊んだ思い出がある』『生まれ育った場所である』という郷愁や歴史性に根ざした親しみ、愛着が示された。

3.2 最近の神田川的环境に対する認識について

(A) 最近の神田川的环境について以前と比べてどうか

神田川の最近の環境については『昔と比べてやや良くなっている』240通(34%)、『良くなっている』172通(24.4%)、『余り変わらない』91通(12.9%)、『昔と比べてやや悪くなっている』60通(8.5%)、『昔と比べて悪くなっている』108通(15.3%)、無回答35通(5.0%)となっている。全体の60%近くの方が神田川の最近の環境は良くなっているとしている。

しかし、この認識は地域毎にかなり異なり、上流部の杉並区、三鷹市では『良くなっている』という回答が多く、下流部の千代田区、中央区、文京区では『やや良くなっている』という回答が多い。これに対して、中流部の新宿区、豊島区、中野区では『やや悪くなっている』『悪くなっている』の回答が多くなっている。

(B) 最近の神田川的环境が良くなっている理由について

	1987年	1973年
・ 下水道の整備	23.5%(166通)	42%
・ 護岸の整備	22.8%(161通)	30%
・ 区のごみさらい	4.8%(34通)	20%
・ 沿道が整備された	6.8%(48通)	—
・ その他	1.1%(8通)	5%

また、この結果を地域別にみると『下水道の整備』はどの区市も高く流域全体を通じて評価されていることがわかる。一方、『護岸の整備』は上下流部の三鷹市、杉並区、中野区、豊島区において高く評価されているものの千代田区、中央区、文京区、新宿区の下流部では評価が低くなっている。サンプル数が異なるものの1973年当時の同じ質問に対しては、現在より『下水道の整備』『護岸の整備』が良くなった理由として評価が高いが『区のごみさらい』(清掃)も高いのが特徴である。

(C) 神田川的环境が悪くなったとする理由について

『やや悪くなった』『悪くなった』と回答した人の理由については以下に示す通りである。

・ 現在でも水質が悪いから	9.6%(68通)
・ 昔に比べて水量が減少したから	6.4%(45通)
・ 川の中で遊べないから	0.7%(5通)
・ 護岸がコンクリートで固められ川に風情がなくなった	16.1%(114通)
・ その他	1.4%(10通)

この回答を地域別に見ると『川としての風情がなくなった』は中流部の新宿区、豊島区、中野区で多くなっている。又、『水質が悪い』は千代田区、文京区、中央区、新宿区の下流部で、特に多くなっている。また

『良くなっている』等他の項目を選択した人も72通この質問に回答している。これは、下水道や護岸の環境整備が進み、環境が改善されてきているが川の風情がなくなったり、水質、水量には問題があることを指摘している。

3.3 神田川のイメージについて

神田川に対してどんな感じをもっているか。あるいは、何を思い浮かべるかイメージを好きなだけ選択してもらい多い順に並べた回答はつぎの通りである。

1. 東京に残された貴重な自然 41.4%(292通)
2. 井の頭公園 36.0%(254通)
3. コイの泳ぐ川 31.6%(223通)
4. かつての神田上水 30.0%(212通)
5. 善福寺公園 28.5%(201通)
6. 洪水、水害 27.5%(194通)
7. 聖橋 21.5%(152通)
8. どぶ川 21.2%(150通)
9. かつてのヒット曲『神田川』
10. 人工河川 19.1%(135通)
11. いこいの場 17.6%(124通)
12. 高速道路や鉄塔に覆われた川
13. 親しみのある川 15.2%(107通)
14. 日本橋 13.0%(92通)
15. 排水路 12.7%(90通)
16. 妙正寺公園 11.8%(83通)
17. 悪臭、ユスリカの発生源 11.3%(80通)
18. カモの集まる川 10.5%(74通)
19. 心のふるさと 7.2%(51通)
20. 遊び場 6.5%(46通)
21. その他5.7%(40通)
22. なじみのない川 3.8%(27通)
- 無回答1.8%(13通)

この回答を更に地域別にみると『東京に残された貴重な自然』(41.4%)『かつての神田上水』(30.0%)という回答は流域全体を通じて多くなっているが、上中下流部でそれぞれ異なるイメージを抱いている面も強いようである。すなわち、上流部の杉並区、三鷹市、武蔵野市では『いこいの場』『遊び場』というイメージが強くなっているのに対して、中流部の中野区、新宿区、豊島区では『洪水、水害』『かつてのヒット曲神田川』のイメージが強くなっている。又、文京区、新宿区、杉並区では『コイの泳ぐ川』というイメージが強くなっている。有識者は一般住民と上記の1、4は共通しているが『井の頭公園』『善福寺公園』『聖橋』及び『どぶ川』が上位を占めている。

3.4 神田川が抱えている問題について

都民に親しまれる川にするためには、現在の神田川にはどのような問題があると考えているのか、複数回答の結果は次の通りである。

1. 水が汚ない 57.2%(404通)
2. 水量が少ない 53.1%(375通)
3. 緑が少ない 50.4%(356通)
4. 護岸や川底がコンクリート化されている 48.6%(343通)
5. 川沿いに歩くことができない 31.2%(220通)
6. 川の上に高速道路や鉄塔が設けられている 21.7%(153通)
7. ゴミ捨て場になっている 20.0%(141通)
8. 川沿いの建物が川に背を向けてたっている 17.8%(126通)
9. 堤防が嵩上されて川を眺めることができない 13.0%(92通)
10. ユスリカが発生したり悪臭がひどい 12.3%(87通)
11. 両岸の管理が十分されておらず雑草等で覆われている 9.5%(67通)
12. その他 6.8%(48通)
13. 周辺が駐車場になっている 4.8%(34通)
- 無回答5.4%(38通)

この結果を地域別にみると、下流部の千代田区、中央区、文京区、新宿区では『水が汚ない』『緑が少ない』『川沿いに歩けない』という回答が多くなっている。また、上中流部の中野区、杉並区、三鷹市、武蔵野市では『水量が少ない』という回答が多くなっている。

なお、以上の結果については住民、有識者共に共通した傾向であった。

3.5 神田川の暗渠化について

神田川の暗渠化について今回の調査結果と1973年での回答を比較すると以下の通りである。

	一般住民1987年	1973年	有識者
・ 蓋をすべきではない	51.1%(361通)	44%	66.7%(48通)
・ 部分的に蓋をして、上を利用すべきだ	29.5%(208通)	26%	22.2%(16通)
・ 蓋をして公園、駐車場等に利用すべきだ	7.9%(56通)	11%	2.8%(2通)
・ 下水本管として、川は埋める	1.1%(8通)	8%	0.0%(0通)
・ その他	1.3%(9通)	5%	1.4%(1通)
無回答	9.1%(64通)	6%	6.9%(5通)

3.6 神田川水系の今後の望ましい整備方向について

(A) 神田川上流部、妙正寺川、善福寺川では平常時どの位の水位があれば景観上好ましいと思うか、写真を参考にしながら、好ましい水位に順位づけで回答を求めた。

	一般住民	有識者
1. 沿道から1.5m前後低い水面が好ましい	46.4%(267通)	41.7%(30通)
2. 河床が隠れる位の水面が好ましい	24.7%(142通)	8.3%(6通)
3. 沿道から50cm前後低い水面が好ましい	21.7%(125通)	27.7%(20通)
4. いままでで良い	7.3%(42通)	1.4%(1通)

(B) もし、事業が行なわれるとしたなら神田川周辺をどの様に整備したら良いと思われるか3つ回答を求めた。

	一般住民	有識者
1. 都民がみんなで楽しむことのできる河川公園・広場等の空間	55.5%(392通)	61.4%(44通)
2. 遊歩道やサイクリングロード等川辺に沿って楽しむことのできる空間	47.0%(332通)	56.9%(41通)
3. 川辺の美しい景観をゆっくり楽しむことのできる空間	44.8%(316通)	45.8%(33通)
4. 神田川の歴史を再現した施設の整備等落ち着いた静な雰囲気と歴史・文化の香りが楽しめる空間	40.1%(283通)	47.2%(34通)
5. ホタルの放流等自然の動植物に親しむことのできる空間	32.9%(232通)	34.7%(25通)
6. 釣りや魚取りができる空間	21.8%(154通)	16.7%(12通)
7. 直接水の中に入って水泳や水遊びができる空間	16.0%(113通)	16.7%(12通)
8. カヌーやボート等の水上レジャーを楽しむことのできる空間	4.5%(32通)	9.7%(7通)
無回答	7.6%(54通)	2.8%(2通)

今後の神田川整備の望ましい方向としては『河川公園・広場』『遊歩道、サイクリングロード』『河川景観を楽しむ空間』『歴史を再現し、文化の香りが楽しめる空間』という回答多い。この傾向は住民、有識者とも共通している。

更に、この回答を地域別にみると『河川公園・広場』や『遊歩道、サイクリングロード』は地域によらず神田川流域全体で高い支持を得ている。一方、『歴史、文化の香りが楽しめる空間』は下流部の千代田区、中央区、文京区で高い支持を得ている。

(C) 神田川の良好な河川環境づくりをおこなっていく適地として考えられる場所について

前項で示した『空間』を実現していくにあたり、適当と考えられる場所について具体的に回答を求めた。

1. 都民がみんなで楽しむことのできる 河川公園・広場等の空間	1. 井の頭公園 2. 善福寺公園 3. 哲学堂公園
2. 遊歩道やサイクリングロード等川辺に沿って楽しむことのできる空間	1. 井の頭公園 2. 御茶の水、飯田橋、善福寺川
3. 川辺の美しい景観をゆっくり楽しむことのできる空間	1. 御茶の水 2. 井の頭公園 3. 善福寺川
4. 神田川の歴史を再現した施設の整備等落ち着いた静な雰囲気と歴史・文化の香りが楽しめる空間	1. 御茶の水 2. 井の頭公園 3. 善福寺公園
5. ホタルの放流等自然の動植物に親しむことのできる空間	1. 井の頭公園 2. 善福寺公園 3. 神田川上流
6. 釣りや魚取りができる空間	1. 井の頭公園 2. 水道橋、妙正寺公園、善福寺公園
7. 直接水の中に入って水泳や水遊びができる空間	1. 井の頭公園 2. 善福寺公園 3. 神田川、善福寺川上流
8. カヌーやボート等の水上レジャーを楽しむことのできる空間	1. 御茶の水 2. 江戸川橋公園 3. 哲学堂公園

3.7 今後、神田川で行いたい活動、イベントについて

神田川で行いたい活動、イベントについて、水泳、花火等例示をしながら記述式で回答を求めた。回答を14項目にまとめ多い順にならべると以下の通りである。

- | | | |
|-------------------------|--------------------------|----------------------|
| 1. 花火大会 55.4%(391通) | 2. ボート大会 41.6%(294通) | 3. ホタル狩り 23.8%(168通) |
| 4. お花見 13.3%(94通) | 5. ジョッキング 8.8%(62通) | 6. 釣り 8.2%(58通) |
| 7. 水遊 7.5%(53通) | 8. 川の清掃、クリーン対策 2.8%(20通) | 9. 写生会 1.8%(13通) |
| 10. バードウォッチング 1.7%(12通) | 11. 自然観察 0.7%(5通) | 12. 水泳 0.4%(3通) |
| 13. 散歩 0.1%(1通) | 15. その他 0 | 無回答 43.1%(304通) |

今後、神田川で行いたい活動、イベントのベスト3は『花火大会』『ボート大会』『ホタル狩り』である。これは、現在、神田川で行なわれていない活動、イベントではあるがどの地域でも高い要望となっていて、地域による差は見られない。一般住民と有識者との比較では前者がむしろ現在行なわれていない『花火大会』や『ボート大会』更に『ホタル狩り』などを望んでいるのに対して、後者は現実的な傾向が強く、『散歩』『釣り』などとなっている。

3.8 一般的に川の魅力についてどのように考えているのか

この設問については川の魅力として重要と考えられる項目から順位を付ける方法で回答を求めた。今回のアンケートと1973年当時と比較すると次の通りである。ただし、1973年はサンプル数が不明であるので順位のみである。

- | 1987年
一般住民 | 1987年
有識者 | 1973年 |
|---------------------|--------------------|-----------|
| 1. 水の流れ 45.3%(295通) | 1. 水の流れ 54.3%(38通) | 1. 水の流れ |
| 2. 川の景色 36.5%(235通) | 2. 川の景色 21.4%(15通) | 2. 川の景色 |
| 3. 川辺の散歩道 9.2%(59通) | 3. 水辺の植物 10%(7通) | 3. 水辺の植物 |
| 4. 川に棲む生物 5.7%(37通) | 4. 川辺の散歩道 8.6%(6通) | 4. 川に棲む生物 |
| 5. 水辺の植物 2.8%(18通) | 5. 川に棲む生物 5.7%(4通) | 5. 川辺の散歩道 |

一般的に川の魅力については『水の流れ』『川の景色』が一般住民、有識者更に、1973年とも変わらず上位を占めている。『水辺の植物』が有識者や過去では上位にあつたが今日では比率としては少なく、これに変わって『川辺の散歩道』が上位に上っている。河川改修等現実的な河川整備の実施状況を反映しているものと考えられる。

4. おわりに

神田川流域は流域面積105Km²、人口約175万人(昭和60年)、下水道普及率99%(昭和62年)という既成市街地を形成し、東京の文化、経済、歴史を代表する中心的地域である。このような地域を対象として行った河川環境に関する郵送方式のアンケートとしては回収率21.5%は評価できるものと考えられる。今回の調査結果から神田川に対する流域住民の意識実態は流域に共通するものとその地域の固有の課題とが明らかになった。

神田川に対する親しみ、愛着は一般住民、有識者とも60~70%と極めて高い。しかし、中流部の水害を受けている地域では少ない傾向である。神田川への環境に対する認識はほぼ流域に共通し、全体の60%の人が環境が良くなったとしている。その内容は『下水道の整備』『護岸の整備』があげられる。

一方、神田川の環境が悪くなったとする理由は各々の問題点では地域性があるが流域全体では『護岸のコンクリート化』『水質の悪化』『水量の減少』があげられる。

今回のアンケート調査結果では神田川の河川環境を整備して行く上で抱えている問題点、河川へのイメージを明らかにすることができた。今後は、更に、詳細な検討を加え、地域性を考慮した具体的な河川整備の方向を示すことができるものと考えられる。